

XI. 日向市駅周辺地区整備

事例名称	事業分野・施設	所在地	事業主体	事業特性	
XI 日向市駅周辺地区整備	駅・駅前広場	宮崎	JR九州、宮崎県、日向市	改修整備、複合的整備、P Iの実施あり、大規模（地域全体へ影響）	
調査結果概要					
現地での調査	対象	手法	捉えられた効果		
			意識変化	活動変化	空間変化
利用者	利用者へのアンケート調査 日向市民1500世帯（うち商業者500） 回収数：253（うち商業者94） 回収率：16.9%	郵送	○まちのシンボルになったと感じる ○わが町への誇りを感じる ○地域性の再認識・再発見できた ○杉産地の歴史に対して誇りを持つようになった ○日向市の地形、町並みを再発見できた ○駅周辺の印象が良くなった ○駅前広場の利用しやすさ	○回遊性の向上 ○駅周辺におけるコミュニティの形成 ○駅周辺でのイベント開催 ○駅前広場での利用の変化 ○清掃などの維持管理活動の実施 ○駅のプラットフォームからまわりの景色を眺める	⑭地元産材を用いた建物のファサードの形成
	利用団体へのヒアリング調査 日向商工会議所 街育て隊 子ども遊センター 日向木の芽会 商店街組合	訪問ヒアリング	○まちのシンボルになったと感じる ○わが町への誇りを感じる ○地域性の再認識・再発見できた ○杉産地の歴史に対して誇りを持つようになった ○地域の連帯感が形成された ○駅周辺の印象が良くなった ○駅に対する親しみ・愛着	○駅周辺におけるコミュニティの形成 ○駅周辺でのイベント開催 ○駅前広場での利用の変化 ○清掃などの維持管理活動の実施	○連帯した商業活動の活性化 ○軒先空間の工夫、雰囲気向上 ○周辺施設の連帯性の向上
	定点観測調査 平日・土日			○駅のプラットフォームからまわりの景色を眺める	
周辺施設	対象建築物等所有者等へのヒアリング調査 助成対象物件、現地調査で得た情報を対象にヒアリング	訪問ヒアリング			○地元産材を用いた建物のファサードの形成 ○連帯した商業活動の活性化 ○建物ファサードの統一 ○軒先空間の工夫、雰囲気向上 ○周辺施設の連帯性の向上
行政	行政担当者・設計者へのヒアリング 宮崎県土木整備部 日向市建設部 建築士青年部会 設計者	現地でのヒアリング	○景観整備に対する意識の変化 ○地域の連帯感が形成された		○建物の屋根の統一
景観整備による効果		具体内容			
意識変化	整備した空間の機能向上に対する認知	・新駅舎の利便性が良くなった ・東西駅前広場の利便性が良くなった			
	造形・施設・空間の印象評価	・駅舎に地場産材を使用したことが良い ・東西駅前広場の印象が良い ・まちのシンボルになった ・駅周辺の景観が良くなった			
	親しみ・愛着	・駅舎や駅前広場に対して、愛着や親しみを感じている ・（完成後1年経って）愛着がわいてきた			
	誇り	・杉産地の歴史に対して誇りを持つようになった ・（完成後1年経って）誇りに思う			
	その他	・地域のシンボルとしての認知、地域らしさについての認知 ・景観やまちづくり、環境等に関する意識の高まり ・住民、行政、設計者、施工者の信頼関係の構築			
利用者行動に与える効果	利用形態・頻度等の変化	・駅周辺へ出向く回数が増加した ・親子連れが遠足に来るようになった（お弁当持参のピクニック）			
	商業活動の活性化	-			
	地域活動の活性化	・駅周辺でのイベントが開催されている			
	近隣住民同士の会話の場	-			
	環境保全、学習活動	・地元小中学生の「まちづくり課外授業」の対象として採用			
施設周辺の空間に与える効果	建物ファサード変化	・定点観測で、杉を用いている店舗をいくつか確認した ・建築に関するルールを策定。建物の屋根を緑色に揃えた			
	その他	・「匠の街」（建築物に関する整備方針）、「日向市駅周辺地区地区計画」を策定			
その他	地場材の活用	・店舗の設計においても、「日向らしさ」の表現のために杉材の使用を意識的にするようになった ・県職員による、杉材に関わる積極的なPR活動			
	外部評価の高まり	・雑誌やメディアの取材が多い			

調査範囲等



▲駅のプラットフォームから、景色を眺める人



▲ファサードに木材を用いている建物



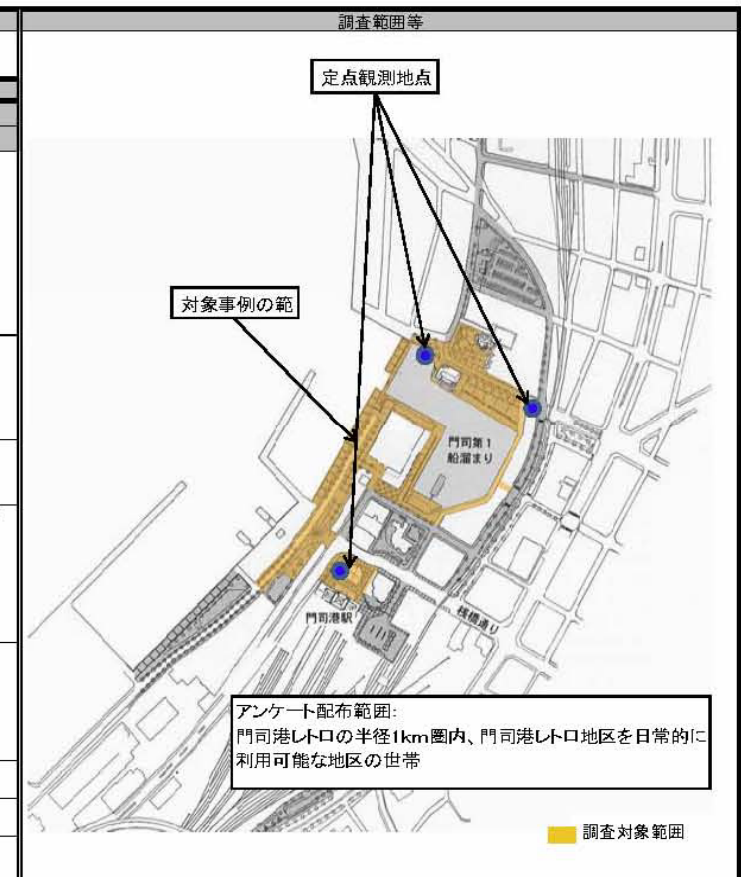
▲駅の高架下の様子(24H通り抜け可能)



▲駅のプラットフォームから見た景色

XII. 門司港レトロ地区環境整備

事例名称	事業分野・施設	所在都道府県	事業主体	事業特性			
XII 門司港	港湾	福岡県	北九州市	1995年竣工、新規整備、大規模（地域全体へ影響）、複合的整備、地域住民以外の利用あり			
調査結果概要							
現地での調査		対象	手法	捉えられた効果			
利用者	利用者へのアンケート調査	北九州市門司区の門司港レトロ周辺500m範囲の町字の住民2900世帯	ポスティング	意識変化 ○歩きやすくなった ○夜景の眺めが良い ○親しみ、愛着、誇りを持つようになり、地域の顔と感ずる	活動変化 ○通勤・通学路、散歩・ジョギング・ウォーキングなどの利用の創出 ○ベンチ等を利用した休憩場所としての利用 ○夕夜景、関門海峡の鑑賞 ○船だまりや歴史的な建物、ブルーウィング門司の鑑賞 ○イベントへの参加 ○買い物や食事のための利用	空間変化	
		北九州市の市政モニター	既存市政モニターアンケート、既存論文	○関門海峡を眺める場所として良いとの評価 ○景勝地である「和布刈」以上に美しい場所との評価 ○絵になる風景としての認識	○門司区の市民は頻りに来訪しており、他区の市民も年に何度か来訪している		
		観光客	レトロ地区・和布刈地区 観光客数の推移データ等	○旧市街地も含めた観光客の回遊性を高めるための施策を実施			
		利用団体へのヒアリング調査	①洋建築計画事務所 ②門司まちづくり21世紀の会 ③株式会社ヤマグチ（栄町銀天街）	訪問ヒアリング	○活動の場として意識するようになった（各種イベントの開催） ○自慢できる、紹介できる場所となった ○歴史的資源に対して誇りを持つようになった ○親しみ、誇り、愛着等の意識が高まった	○非日常を感じられる空間としての利用するようになった ○観光客（団体、個人）が増加した	○観光地としての価値の向上、商業活動の活性化・変化
		定点観測調査	平日・土日	門司港駅前、船だまり、跳ね橋の3か所	○歴史、港町、海峡の町を感じるようになった（写真撮影や絵を描く人の増加）	○散策や通勤・通学路として利用するようになった ○回遊性が向上した ○地元の人々の利用（買い物、散策、食事等）が増えた	
施設周辺	現地調査（調査対象建築物・施設の抽出） 対象建築物等所有者等へのヒアリング調査						
行政	行政担当者へのヒアリング	①北九州市産業経済局門司港レトロ室	訪問ヒアリング	○門司港レトロがなければ、もっと人口減少が進んでいた	○イベントの開催、マスコミへの掲載は増加した	○周辺のマンションの立地が増加した	
項目		具体例					
意識変化	機能評価	○門司港で美しいと思われる場所としての評価 ○観光客に見てもらいたい場所としての評価					
	造形・空間の印象評価	○親しみ・愛着の意識の形成 ○誇りの意識の形成 ○町に明るさ、楽しさ、賑やかさが出てきたとの評価					
利用者行動に与える効果	利用形態・頻度等の変化	○通勤・通学、散歩、犬の散歩の利用 ○スケッチの作成や写真撮影等の視点場としての利用 ○知人等の来訪時の案内する場所としての利用 ○水辺を眺めながらゆっくりするなどの利用 ○自分の書いた門司港の絵をベンチに並べ紹介する利用等 ○地元区民の利用する頻度は非常に高い					
	商業活動の活性化	○門司港レトロ倶楽部によるイベントの頻繁な開催					
	地域活動の活性化	○写生教室等による利用					
	環境保全、学習活動						
	施設を核とした避難体制の構築						
	近隣住民同士の会話の場						
	利用ルールの形成						
	樹木の手入れ・花壇等の設置						
	清掃等の維持管理活動	○市民団体による清掃活動の活性化 ○イベント運営等のための組織の設立 ○地域情報誌の発行					
	その他						
施設効果	商業活動の変化	○ホテルの整備 ○商業施設の整備 ○美術館の整備					
	建物ファサード変化						
	軒先空間の変化						
	周辺景観の改善	○水辺を意識した建築物等の設計 ○跳ね橋等の新たな視対象の創出と既存資源の活用による視点場の形成 ○景観条例の「都市景観整備地区」に指定（H8.5.1） ○関門景観条例を両市で制定（H13.10.3）					
	周辺施設の連携性の向上						
視覚場形成	視覚場の形成						
	その他						
その他	○土木学会デザイン賞他多数受賞 ○映画・CMの撮影等マスコミ、メディアへの掲載 ○観光客数、観光消費額の増加 ○観光地としての地位の確立、知名度のアップ ○周辺地区でのマンションの立地 ○Uターン、新住民の増加 ○商業地としての地価の上昇						



XIII. 汽 車 道

事例名称	事業分野・施設	所在都道府県	事業主体	事業特性	
XIII 汽 車 道	港湾	神奈川県	横浜市	1997年竣工、新規整備、地域住民以外の利用あり	
調査結果概要					
現地での調査	対象	手法	捉えられた効果		
			意識変化	活動変化	
利用者	利用者へのアンケート調査	横浜市中区、西区在住の自動車道より半径1km圏内の住民(2500世帯) ※回収結果：422/2,500通(回収率17%)	ポスティング	○開放感がある ○周囲をよく眺められる ○休憩しやすくなった ○歩きやすい ○水辺が近く自然を感じる ○みなとまち横浜らしさを感じる	○通勤・通学路、散歩・ジョギング・ウォーキングなどの利用の創出 ○ベンチ等を利用した休憩場所としての利用 ○芝生広場でのピクニック、子供との遊び場 ○写真撮影やスケッチの利用 ○イベントへの参加 ○回遊経路の延長
	利用団体へのヒアリング調査	横浜シティガイド協会	訪問ヒアリング	○みなとまち横浜らしさを感じる ○地域資源に対する愛着 ○歴史資源に対する誇り	○回遊経路の延長 ○ボランティアガイドや歴史巡りのコースとしての利用の創出
	定点観測調査	平日・土日	新港地区側第3橋梁付近		○通勤・通学路、散歩・ジョギング・ウォーキングなどの利用の創出 ○ベンチ等を利用した休憩場所としての利用 ○芝生広場でのピクニック、子供との遊び場 ○写真撮影やスケッチの利用
施設周辺	現地調査(調査対象建築物・施設の抽出)		現地調査		○ナビオス横浜の赤レンガ倉庫へ抜ける通景空間の設置
	対象建築物等所有者等へのヒアリング調査	(株)横浜インボトマツ 松本氏	訪問ヒアリング		○クリスマス時のキャンドルイルミネーション
行政	行政担当者へのヒアリング	①横浜市環境創造局環境整備部 ②横浜市都市整備局都市デザイン室 ③横浜市中区総務部政推進課	訪問ヒアリング	○みなとみらい地区全体としての景観形成に対する意識	○来訪者(観光客、地元住民)の利用の創出 ○ナビオス横浜の赤レンガ倉庫へ抜ける通景空間の設置
項目	具体例				
意識変化	機能評価	・車が通らず歩きやすいとの評価 ・赤レンガ倉庫など連続する施設とのつながりがある→赤レンガ倉庫や横浜ワールドポーターズに行く時に利用する人が多い ・周囲を水域に囲まれる360度のパノラマで、みなとみらいを眺める視点場として良いとの評価			
	造形・空間的印象評価	・自動車道全体の評価として大変良い、良いとの評価 ・水域に囲まれ解放感があるとの評価、周囲の眺めが良いとの評価、夜景の眺めが良いとの評価 ・周囲の雰囲気と合っている、緑地や緑があり自然を感じる			
	親しみ・愛着 誇り	・親しみ、愛着を大変感じる、感じるとの評価 ・誇り思うと大変感じる、感じるとの評価 ・地域にとって誇れる場所である、観光客や友人にお勧めしたい場所である、等			
利用者行動に与える効果	利用形態・頻度等の変化	・主な利用は、新港地区の商業施設(横浜ワールドポーターズ、赤レンガ倉庫)等への通り道としてであった ・通勤・通学路、散歩・ジョギング・ウォーキングなど日常的な利用が多くみられた ・夕夜景の鑑賞、写真撮影やスケッチなど景色を楽しむような利用が多くみられた ・芝生広場やベンチでの休憩や芝生広場で遊ぶなど滞在型の利用も見られた			
	商業活動の活性化 地域活動の活性化	・花火大会の見物場所としての利用や、クリスマス時のキャンドルイルミネーションの会場としての利用が見られた ・ボランティアガイドや歴史巡りのコースとしての利用が見られた			
	環境保全、学習活動	・ボランティアガイドによる横浜新港地区の歴史の学習 ・自動車道整備に関する都市デザイン室からの講義の開催			
	施設を核とした遊憩体制の構築	—			
	近隣住民同士の会話の場	—			
	利用ルールの形成	—			
	樹木の手入れ・花壇等の設置 清掃等の維持管理活動	—			
与え設る周辺効果の空間に	商業活動の変化	—			
	建物ファサード変化	—			
	軒先空間の変化	—			
	周辺景観の改善	—			
その他	周辺施設の連帯性の向上	・ナビオス横浜の赤レンガ倉庫へ抜ける通景空間の設置 ・横浜ワールドポーターズの入口の設置 ・「開港の道」の設定			
	視点場の形成	—			
	散歩道としての回遊性の向上	・自動車道整備前後で周辺で散歩をしている人のうち、7割以上の人が整備後自動車道を利用するようになった ・散歩で自動車道を通る人のうち、多くが赤レンガ倉庫を通ったり、みなとみらい中央地区を通ったり回遊経路を散歩している			
	周辺と連携した拠点の形成(地域の魅力向上)	・景観に対する評価として、自動車道整備の前後で得点化したところ、自動車道整備による得点の上昇が最も大きい結果となる			
	外部評価(専門機関からの表彰)	・土木学会デザイン賞受賞			
	メディアへの掲載	・自動車道から撮影したみなとみらい地区の写真が多数WEBに掲載されている			

